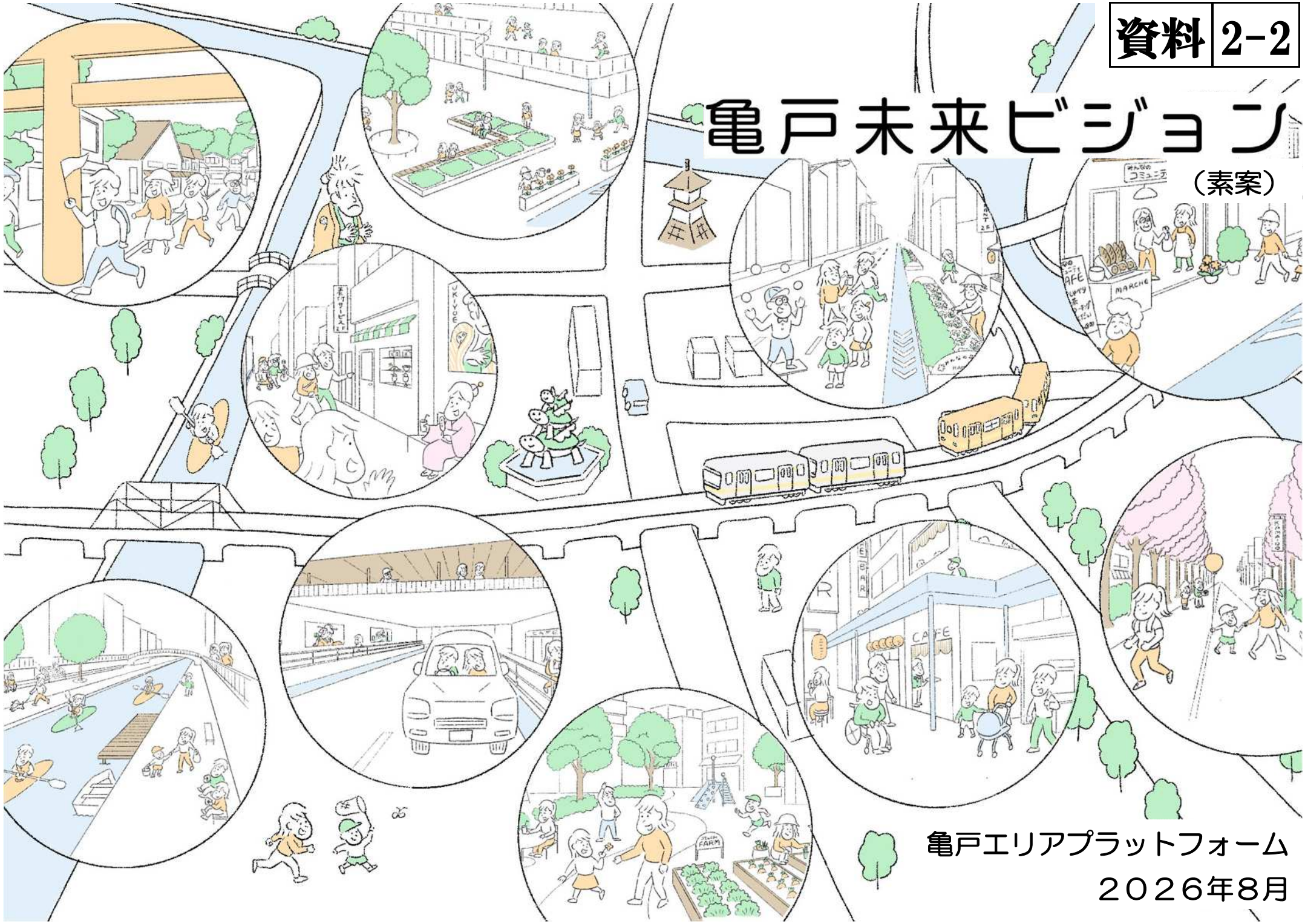
資料 2-2

亀戸未来ビジョン

（素案）



亀戸エリアプラットフォーム

２０２６年8月

ー目次ー

第１章 未来ビジョンの位置づけ
第２章 亀戸で目指すまちづくり
第３章 アクションプラン
第４章 未来ビジョンの実現に向けて
参　考 未来ビジョン作成の経緯

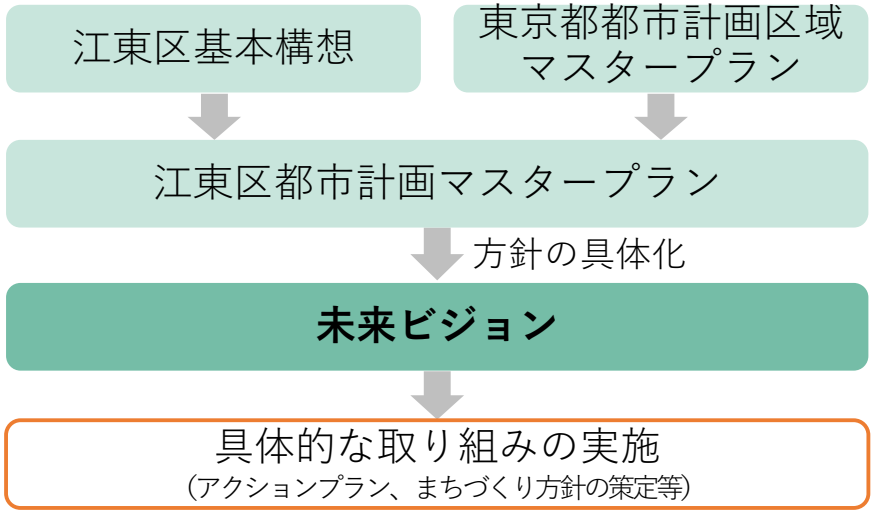
※「未来ビジョン」は「亀戸未来ビジョン」を指します。

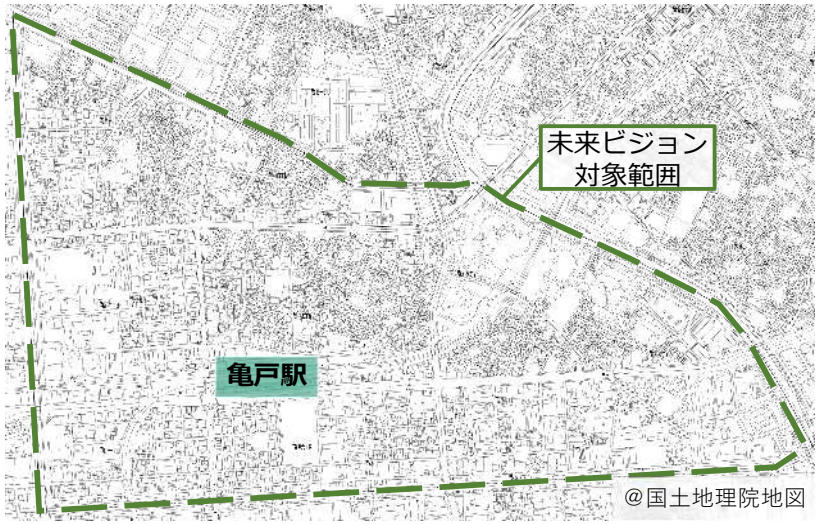
第１章 未来ビジョンの位置づけ

未来ビジョンについて

《未来ビジョンの位置づけ》

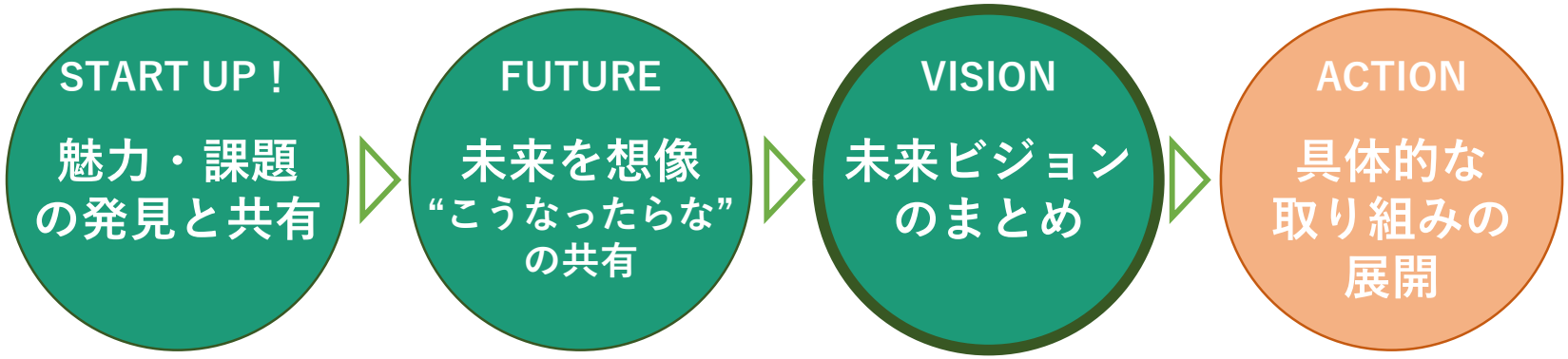
未来ビジョンは、「江東区基本構想」や「江東区都市計画マスタープラン」の考え方を踏まえ、地域の皆様とともに検討を進めてきた亀戸のまちづくりの方向性を示すものです。都市計画マスタープランで示されている「拠点のまちづくり」の考え方に基づき、駅を中心とした周辺の魅力向上や課題解決を図るため、地域資源を活かしたまちづくりの指針となることを目指しています。





《未来ビジョンの使い方》

地域の魅力・課題を踏まえた将来像（こうなったら良いな）を未来ビジョンで共有し、具体的なアクションに繋げていきます。



亀戸のこれまでの歩み

《亀戸の概要》

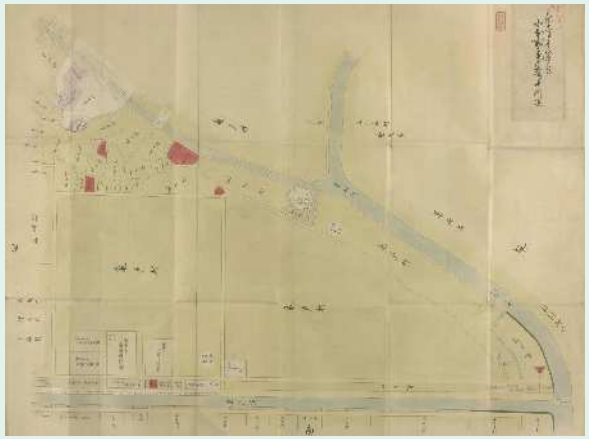
亀戸は、江東区北部の城東地域に位置し、人口は64,497人（令和７年１月１日時点）となっています。

本地域は、JR総武線と東武亀戸線が通る亀戸駅を中心にまちが広がっています。四方を旧中川、横十間川、北十間川、竪川で囲まれ、十三間通りと天神通りが縦横に貫くなどの地理的特徴を持ちます。また、亀戸天神社や光明寺、香取神社、亀戸水神社などの歴史的価値のある神社仏閣を有しています。



《亀戸の成り立ち》

この地域は江戸時代以降の開発で多くの村が成立し、農村地帯を形成しました。そこで生産された農作物は、江戸・東京に出荷され、都市生活を支えました。



出典『北本所亀戸辺ヨリ中川迄：天保一一年八月ノ形』

“運河”の整備による水運の発展とともに繁栄してきた亀戸は、明治時代には工業化が進み、多くの工場が建設されました。精工舎もその一つです。



出典『江東区史』

昭和時代後半には区画整理が進み、多くの工場が郊外に移転しました。工場跡地に住宅や商業施設が建ち、住宅地へとまちの姿を変えてきました。

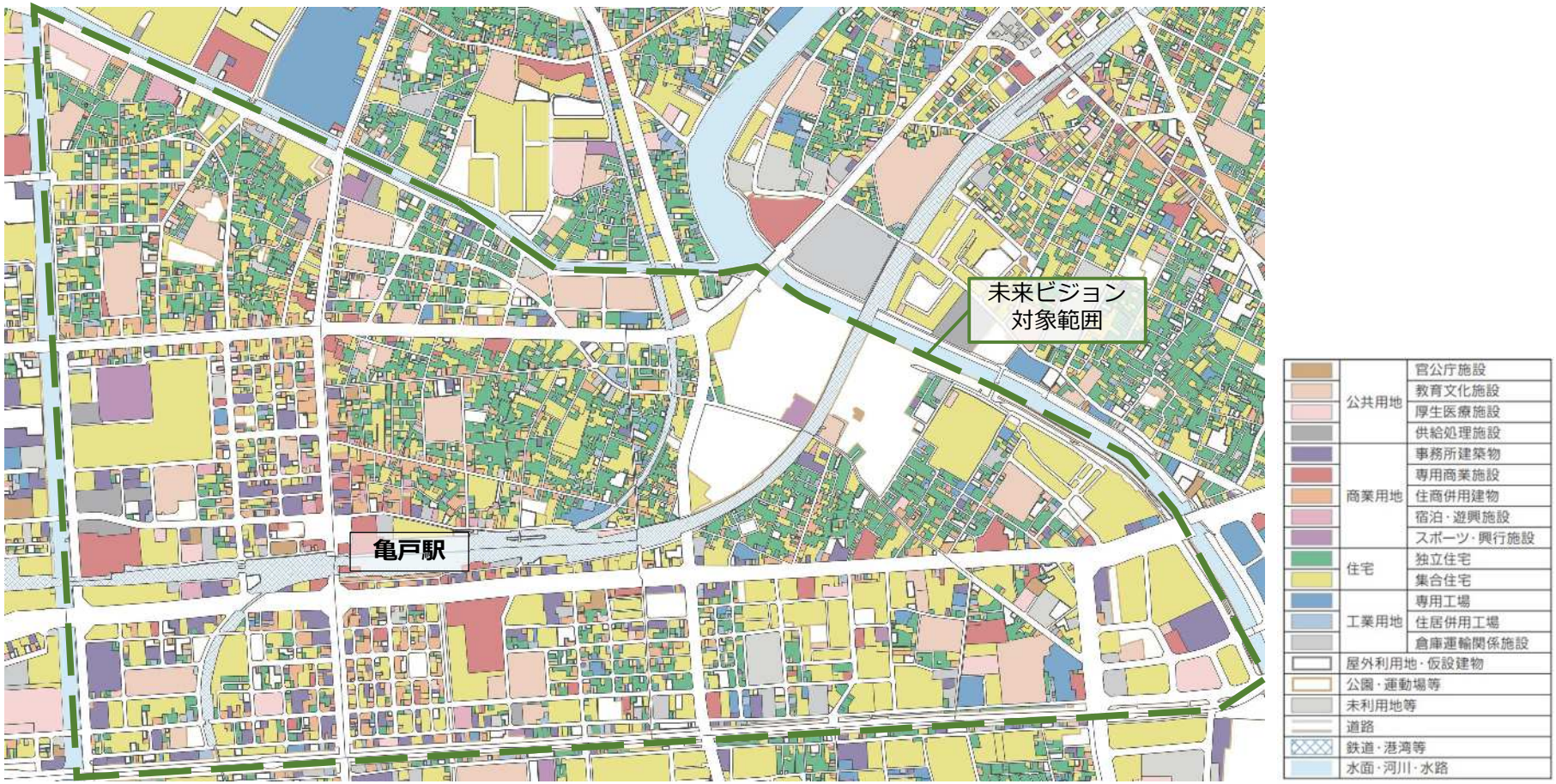


出典『江東区史』

《現況》

【土地利用現況】

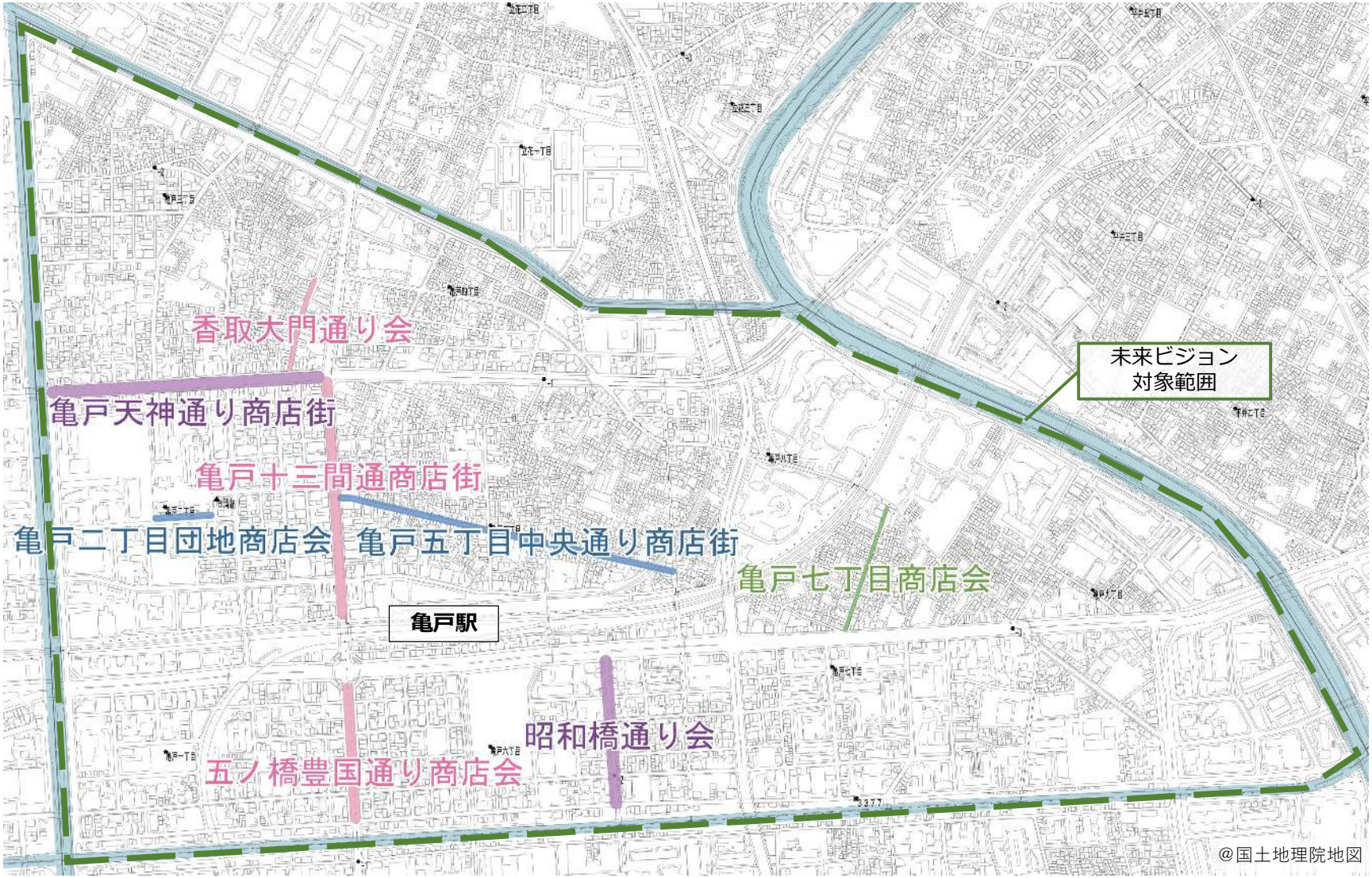
- 亀戸駅周辺は商業地として栄えており、大規模商業施設や小規模店舗が並んでいます。
- エリアの北側は住宅地が広がり、教育文化施設も点在しています。
- エリアの西側、南側は住宅地と商業地が混在しています。
- エリアの東側は住宅地と商業地、工業地が混在しており、特に七丁目では工場や倉庫が多く立ち並んでいます。



出典『土地利用現況調査令和3年』をもとに作成

【商店街】

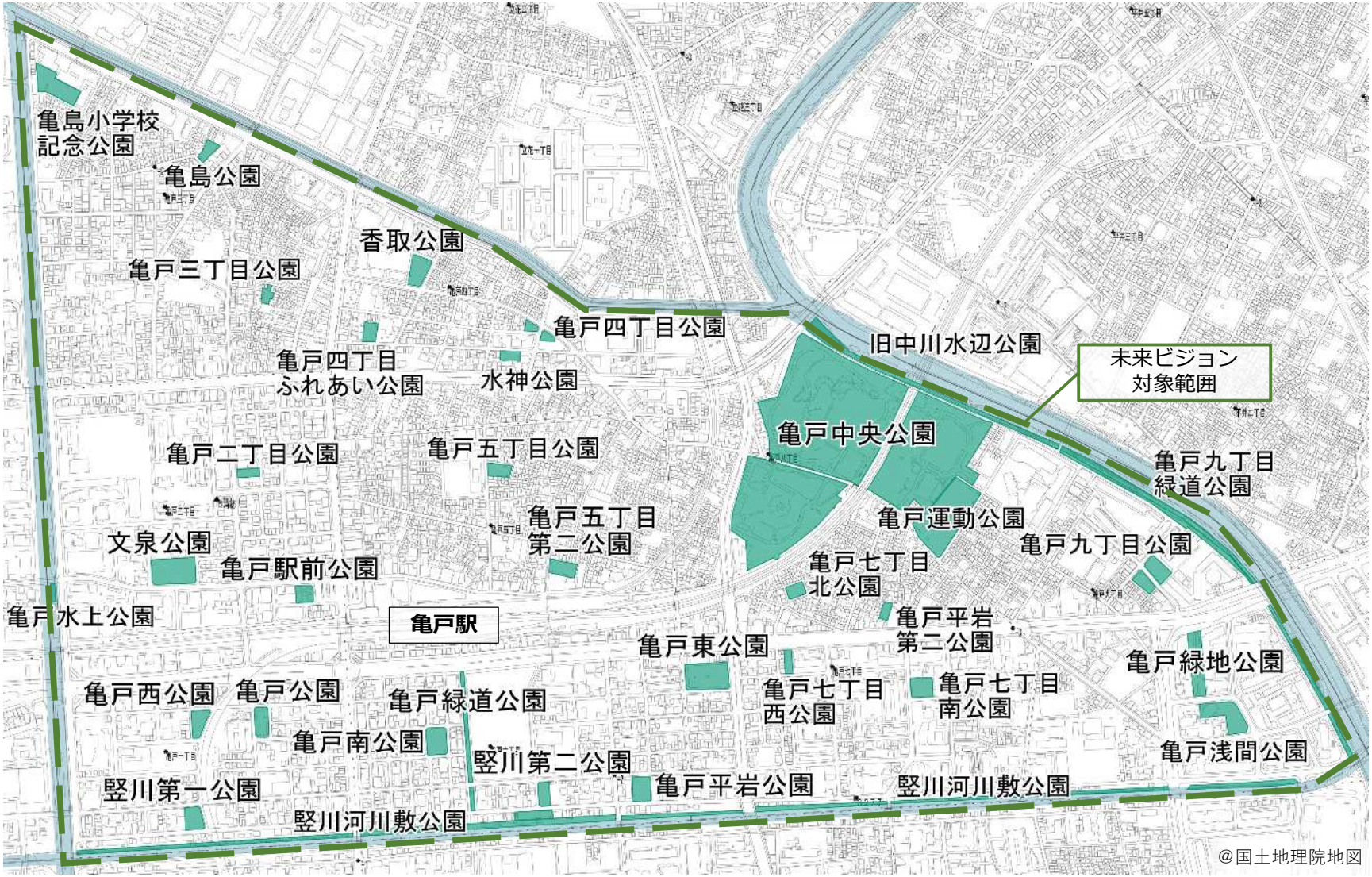
- 亀戸には十三間通りを中心に多くの商店街があります。
- 商店街には飲食店や食品販売店、生活雑貨店などが並び、買い物や食事を楽しむことができます。



出典『江東区商店街マップ（2026年4月1日時点）』をもとに作成

【公園】

- 全体的に公園が点在しており、特にエリアの南部に集積し、こどもの遊び場にもなっています。
- 緑豊かな公園が多く、自然とふれあいながらリラックスできる場所が充実しています。

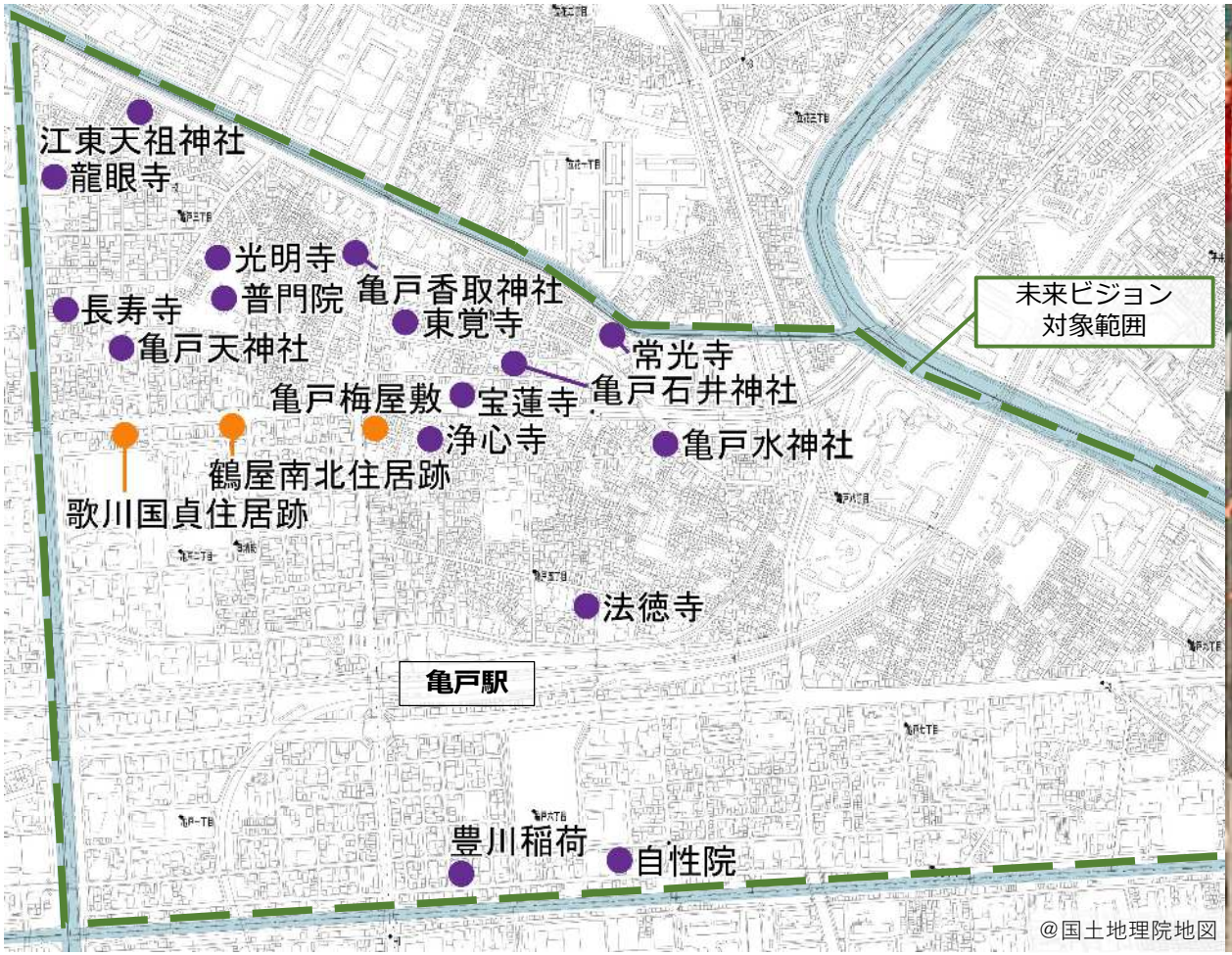


＠国土地理院地図

江東区HPの都立公園及び区立公園を記載

【歴史・文化資源】

- エリア北部には亀戸天神社や香取神社、亀戸水神社などがあります。
- 亀戸は浮世絵の名所としても知られており、葛飾北斎や歌川広重など有名な浮世絵師が亀戸の風景を描いています。
- 亀戸には歌舞伎の作者である鶴屋南北や、市川團十郎などの歌舞伎役者を描いた浮世絵師・歌川国貞らが住んでいました。





出典『Ukiyoe-e-』

【防災】

- 亀戸は標高が低く、河川に囲まれているため、大雨や台風による浸水が懸念されます。
- 高潮時には浸水深さが5m以上になる場所も多くあります。
- 浸水しても安全に避難できる建築物の整備など、浸水対応型まちづくりが必要なエリアです。



出典『江東区高潮ハザードマップ（令和7年3月改定）』

《上位計画》

①東京都都市計画区域マスタープラン

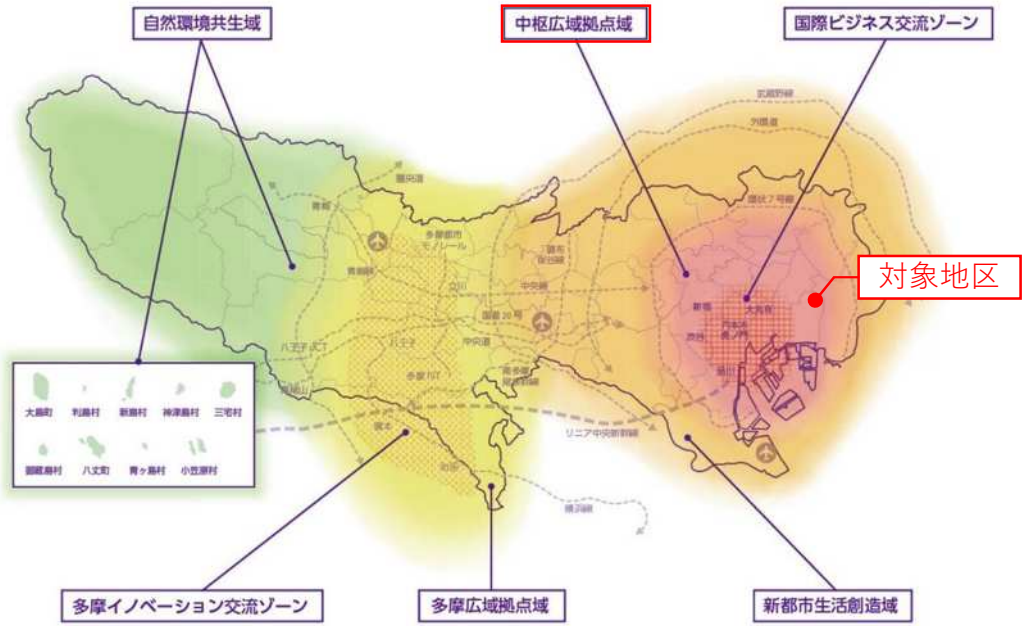
位置付け：中核的な拠点地区

○第４　主要な都市計画の決定の方針
Ⅰ １（２）中核的な拠点などの形成・育成の方針
①中核的な拠点

- 「中核的な拠点」では、首都機能など東京圏及び日本の中心的な役割を担うとともに、国際ビジネスや成熟社会にふさわしい都市文化などを支えていくため、高次の中枢管理機能のほか、国際ビジネス、業務、商業、芸術・文化、観光、居住などの地域特性に応じた多様な機能の集積を図る。

○人が輝く東京の個性ある地域づくり（特色ある地域の将来像）
（１）②東部（荒川以西）【錦糸町・亀戸】

- 東京東部の中枢業務機能を支える拠点として、業務、商業、文化、娯楽などの機能が高度に集積するとともに、にぎわいのある中核的な拠点を形成
- 隅田川や江東内部河川などの水辺空間を活用した下町文化を発信する拠点を亀戸天神社や両国国技館、江戸東京博物館など周辺の個性的な観光資源を生かしながら形成
- シンボル的な道路や公園等が快適な歩行者ネットワークで結ばれ、回遊性が高く、ゆとりのある都市空間を形成



出典『東京都都市計画区域マスタープラン（令和3年3月改定）』

②江東区都市計画マスタープラン

○第２章　まちづくりの将来像と都市づくりの方針
２　（５）ゾーンの方針　【城東地域】 重点戦略３

- 良好な住環境を形成するため、既存の住居・商業・工業・公共などの多様な都市機能と身近な水辺と緑が共存する複合市街地の形成を目指します。
- 地域生活を支える商店街、歴史文化資源及び身近な水辺と緑を活かし、にぎわいと活力のある複合市街地の形成を目指します。
- 浸水リスクに対応する垂直避難ゾーンを形成するため、「浸水対応型建築物の整備」を広げていく「浸水対応型のまちづくり」を進めます

○第４章　地区別まちづくり方針（城東北部地区）
２）拠点のまちづくり　【亀戸都市核】

- 区の北の玄関口として回遊性の高い拠点形成を目指し、亀戸駅周辺を中心に交通広場の再編や交通施設の整備、更新等を図り、商業・業務・交流などの多様な都市機能を誘導します。
- 亀戸天神社をはじめとした歴史・文化資源を活用し、隣接する区の錦糸町、東京スカイツリーなどと連携しながら、回遊性の高いまちづくりを目指します。





出典『江東区都市計画マスタープラン2022（令和4年3月策定）』

③江東区景観計画　【亀戸景観重点地区】

○第３章　良好な景観の形成のための事項
３-５-３　景観形成の目標　水辺に和む『福』都心
①亀戸天神社や亀戸香取神社を中心に、亀島からはじまる歴史・文化を継承する景観づくり
亀戸天神社や亀戸香取神社といった歴史・文化的資源を格に、地域に住む人々の気取らない活気や、亀戸を訪れる人々を迎え入れる温かさを後世に伝える景観づくりを進めます。

②暮らしの中で水辺を身近に感じ、新たな関わりを育む景観づくり
生活する人々が日常の暮らしの中で、水辺を身近に感じ、また、亀戸を訪れる人々も水辺に集い、まちと水辺の新たな関係が生まれるような景観づくりを進めます。

③ウメやフジ、ハギやアジサイなど、亀戸ゆかりの彩りあるみどりを活かした景観づくり
亀戸天神社や亀戸香取神社の境内をはじめ、河川沿いなどに色づく亀戸ゆかりのみどりを、日常の暮らしの中でも身近に感じることのできる景観づくりを進めます。



出典『江東区景観計画（平成25年4月策定）』

大事にしたい亀戸の魅力

水辺・みどり

- 横十間川や旧中川等の豊かな水辺空間に恵まれている。
- 水運の歴史があり、川を活かしたスポーツ文化が根付いている。
- 緑豊かな公園や緑道が整備されており、自然を身近に感じることができる。
- こどもが安心して遊べる公園が充実している。



▲横十間川沿いの遊歩道



▲旧中川でのカヤック



▲緑豊かな緑道公園



▲こどもが遊べる公園

歴史・文化

- 亀戸天神社や香取神社、江東天祖神社等の歴史的な神社仏閣が数多くある。
- 歌舞伎や浮世絵にまつわる文化・歴史を有している。
- 都電が走っていた歴史の面影が、緑道公園として残っている。



▲亀戸天神社



▲江東天祖神社



▲街中の浮世絵



▲都電跡地の緑道公園

商業

- 美味しいお店や個性的でおしゃれなお店、レトロなお店が数多くあり、まちのにぎわいを創出している。
- 長く地域に愛されてきた老舗飲食店を中心として、亀戸の食文化を育んでいる。
- 商店街が各地に広がっており、活気のある街並みを形成している。



▲地域の老舗飲食店


▲地域のおしゃれなお店


▲亀戸五丁目中央通り商店街



▲活気のある飲食店街

住環境

- 身近に緑を感じられる閑静な住宅街が広がっており、落ち着いた潤いのある暮らしが営まれている。
- 駅へのアクセス性に優れ、駅周辺には商業施設や生活サービスが充実しており、生活利便性が高い。
- 子育て支援施設が充実しており、安心して子育てできる環境が整っている。


▲緑豊かな住宅街


▲閑静な住宅街


▲駅周辺の商業施設


▲子育て支援施設

解決したい亀戸の課題

防災

- 標高が低いため、高潮や洪水の際には広範囲で浸水被害が発生するおそれがある。
- 車が入れないような細街路が多く残っており、緊急車両の進入や災害時の避難等が困難である。
- 老朽化した建物や空き家が点在しており、倒壊等のリスクを抱えている。



出典『令和7年度 江東区・第七消防方面合同水防訓練パンフレット』

▲水害の様子



▲住宅地での細街路



▲商業地での細街路



▲老朽化した建築物

南北の分断

- 鉄道線路によって南北が分断されており、亀戸駅周辺では南北を繋ぐ通路が三か所に限られている。
- 線路下の通路は薄暗く、安全で快適な歩行環境が確保されていない。



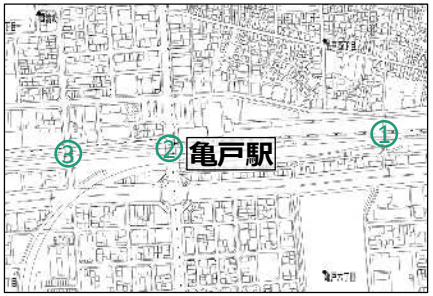
▲線路下の通路①



▲線路下の通路②



▲線路下の通路③



▲位置図

駅周辺整備

- 亀戸駅北口周辺では歩道上の滞留空間が不足し、信号待ちの歩行者が車道まで溢れている。
- 亀戸駅北口の交通広場は明治通りで分断されており、利便性が低い。
- 線路沿いにはさらなる魅力向上の可能性がある空間が見られる。
- JR亀戸駅東口はホームへのアクセスが階段による動線となっている。



▲駅前の滞留空間



▲分断された交通広場



▲線路沿いの土手空間



▲JR亀戸駅東口の階段

防犯・衛生

- 狭く見通しの悪い路地が多く、安心安全な歩行環境が確保されていない。
- 線路沿いの空き地にはごみの不法投棄が散見される。
- 亀戸駅北口の喫煙スペースから煙が周囲に漏れ出しており、衛生環境を損なっている。
- 駐輪場が不足しており、放置自転車が発生している。



▲飲食店街周辺の歩行空間



▲喫煙スペース



▲自転車放置禁止区域



▲放置自転車

第２章 亀戸で目指すまちづくり

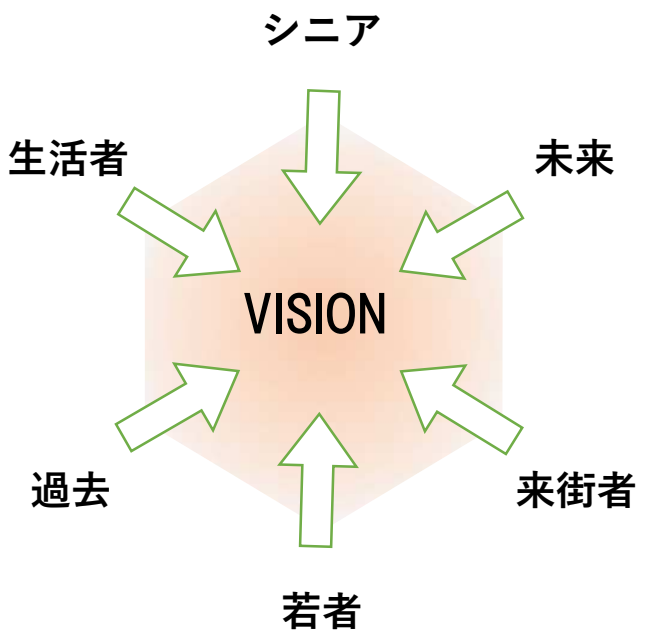
まちづくりの基本方針

《亀戸まちづくりの目標》

六方芳（ろっぽうよし）!! ほっぺがゆるむ水彩シティ亀戸

亀戸では、誇れる歴史と豊かな水辺空間を活かし、生活者と来街者、若者とシニア、過去と未来、各方向のニーズを満たし、思わずほっぺがゆるむまちづくりを目指します。

《未来ビジョンを捉える６つの視点》



未来ビジョンは、①生活者と来街者、②若者とシニア、③歴史と未来の３×２＝６つの視点を持って捉えます。

①生活者と来街者
生活利便性が高く住宅も多いまちである一方で、観光資源も豊富なため、生活者と来街者のニーズを捉えたまちづくりを目指します。

②若者とシニア
子育て世代が増加する一方、先住のシニア層も多く、双方が共存するまちづくりを目指します。

③過去と未来
亀戸のまちを創り上げてきた人々から歴史を引き継ぐと共に、次世代を見据えて最新の技術や知見を活かしたまちづくりを目指します。

《未来ビジョンを構成する６つの基本方針》

未来ビジョン実現のため、６つの基本方針のもとにまちづくりを検討します。

1 歴史の継承と発信

神社仏閣、浮世絵等の芸術文化など、亀戸の誇れる歴史資源を継承すると共に、それらを活かし、発信します。



2 水辺の活用

江戸時代に整備された河川による豊かな水辺空間を活用し、水辺を楽しむ暮らしと観光まちづくりを検討します。



3 食文化の振興

広く愛される食文化と商店街の賑わいを更に振興し、住みたくなる、食べに来たくなるまちを目指します。



4 回遊性の向上

歴史・水辺・食文化等の資源を繋ぎ、歩きやすい空間整備をすることで、亀戸駅を越えて東西南北の回遊性を向上させます。



5 明るく快適な空間の形成

誰もが安心して過ごせるまちを目指し、花や緑があふれ、滞在したくなる、明るくきれいな景観を形成します。



6 防災の強化

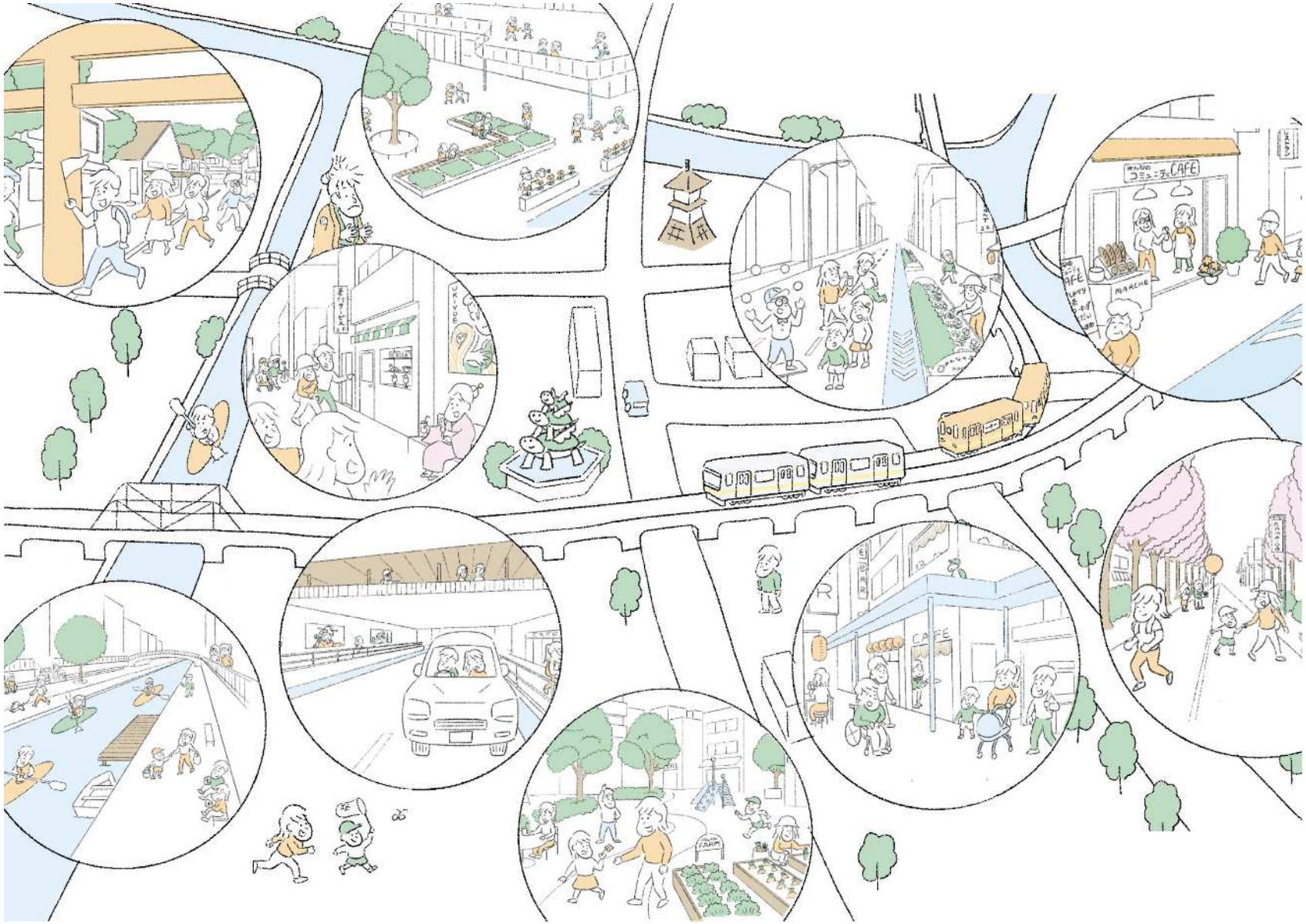
地震・火災に加えて、昨今の気候変動を踏まえた水害への対策を強化し、浸水対応型のまちづくりを推進します。



出典『令和7年度 江東区・第七消防方面 合同水防訓練パンフレット』

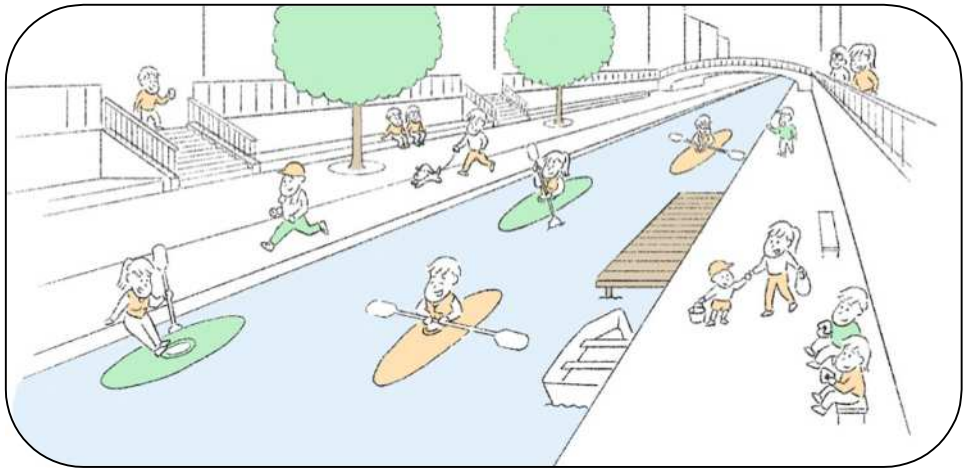
創出したいまちなかのシーン（将来像）

亀戸のまち中に創出したい１０のシーン（将来像）をまとめました。
これから亀戸エリアプラットフォームでは、このシーンを具体化するために活動していきます。



①亀戸を取り囲む川：回遊できる夢見る遊歩道

関連する基本方針：②水辺の活用、④回遊性の向上、⑤明るい景観の形成



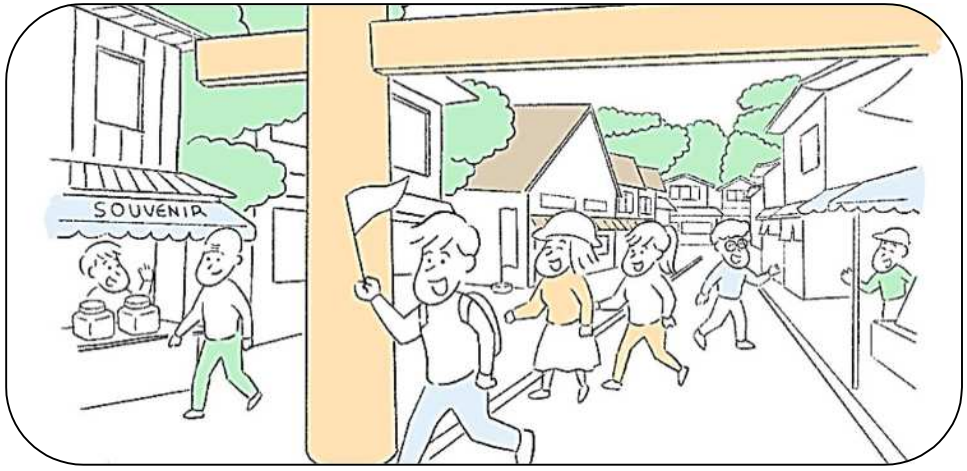
遊歩道や船着き場、釣りができる場所を整備するなど、より一層利用者のニーズに応えた空間づくりを推進します。遊歩道沿いにはベンチなどを設け、ゆったりと滞在できる空間やイベント等に活用できる空間の充実を図ります。

《捉えたいターゲット》



②神社仏閣：みんなで知ろう・教えよう！亀戸の歴史

関連する基本方針：②水辺の活用、④回遊性の向上、⑤明るい景観の形成



亀戸に点在する神社仏閣は、緑も多く散歩等にも適した生活者からのニーズに応える環境を維持しています。地域資源を活かし、地域の歴史文化を次世代へ継承する人材の発掘・育成や、七福神めぐりをはじめとする歴史文化に触れる機会の創出につながる取組を進めます。

《捉えたいターゲット》



③歴史資源が豊富な通り：
江戸時代にタイムスリップ！

関連する基本方針：①歴史の継承と発信、③食文化の振興、④回遊性の向上



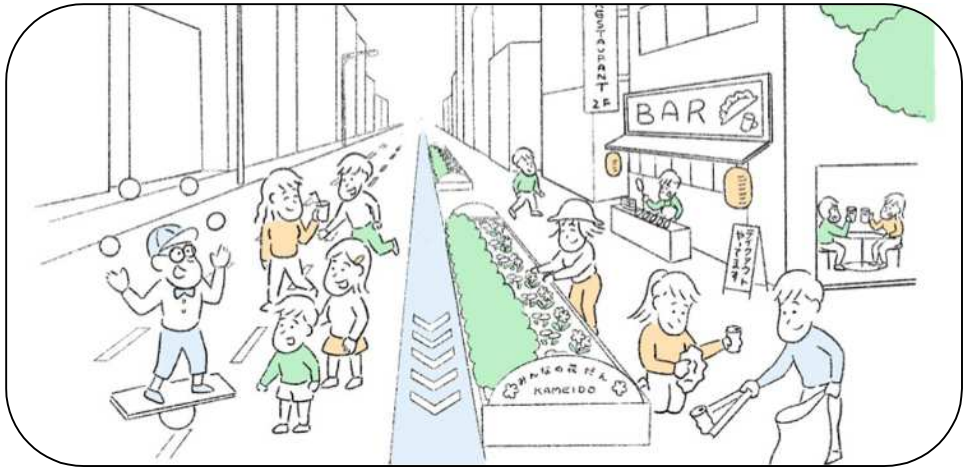
浮世絵や歌舞伎などに関連した歴史を活かして観光客や歌舞伎ファンの訪問を促進し、アーティストや出店希望者などと連携した歴史と文化を楽しむ通りづくりを推進します。滞在空間の創出や、食べ歩き・着付け等カップルや若者に認知される取組を推進します。

《捉えたいターゲット》



④都市の骨格軸：
誰でも安心して歩けるきれいな通り

関連する基本方針：④回遊性の向上、⑤明るい景観の形成



店舗が連なる活気を維持しつつ、安全で快適な通行環境を確保し、誰もが安心して歩ける通りの形成を図ります。歩行者天国や大道芸等を実施している通りは、継続できる仕組みづくりに加え、花植えや清掃活動など地域コミュニティの活性化につながる取組を推進します。

《捉えたいターゲット》



⑤商店街：
多世代が集うわくわく商店街！

関連する基本方針：③食文化の振興、④回遊性の向上、⑤明るい景観の形成



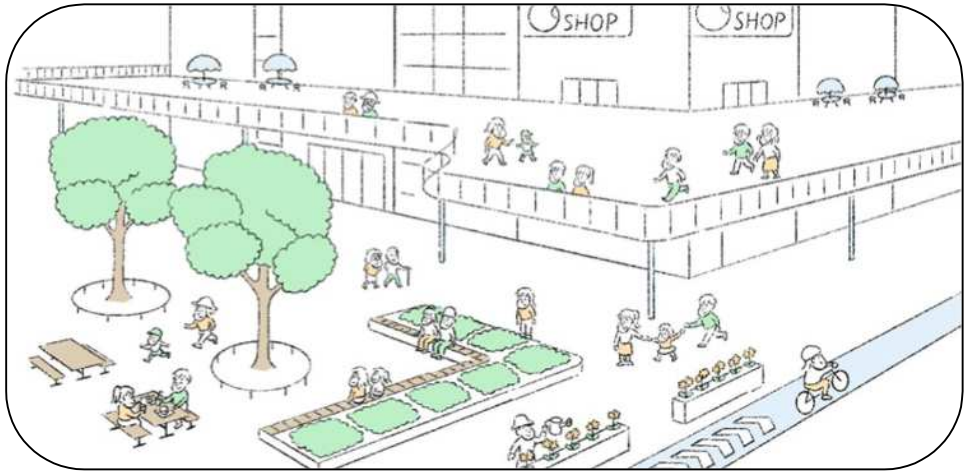
生活者にも来街者にも親しまれる通りを維持しつつ、高齢者や子育て世代なども集いやすい場所づくりや、“映え”要素の強化などによるまちの賑わいにつながる取組を進めます。安全な通行環境を確保するサインの充実など、誰もが過ごしやすい環境の形成を図ります。

《捉えたいターゲット》



⑥駅前広場：
駅前改造！広く・分かりやすく・使いやすく

関連する基本方針：④回遊性の向上、⑤明るい景観の形成、⑥防災の強化



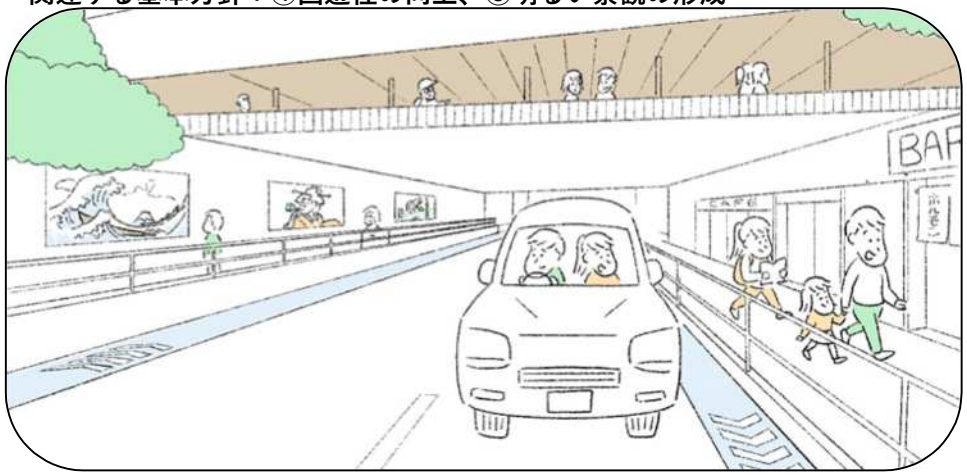
亀戸駅前広場の分断や違法駐輪への対応、さらなる歩行環境の向上などの交通面での課題解決と、周辺建物と連携した水害を含む災害時の対策が求められます。コーヒーを飲む、お弁当を食べる、花を育てるなど、場に賑わいを生み出すアクティビティの創出も望まれます。

《捉えたいターゲット》



⑦線路下通路：
安全で魅力ある南北アクセス空間

関連する基本方針：④回遊性の向上、⑤明るい景観の形成



亀戸駅周辺に３か所ある南北を繋ぐ重要なアクセス路は、安全な歩行空間の確保に加え、多様な手法による空間の魅力向上や賑わいの創出を図ることで、安心して歩ける通りとしていくことが求められます。

《捉えたいターゲット》



⑧線路沿い：
今よりもちょっとおしゃれな通り

関連する基本方針：②水辺の活用、④回遊性の向上、⑤明るい景観の形成



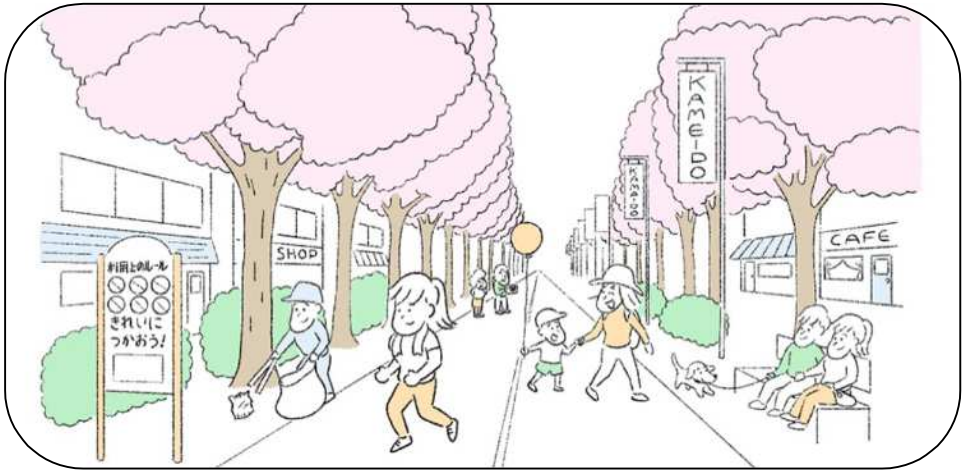
ランチやお茶などのニーズに応え、既存の居酒屋と共存しつつも、親子やこどもなども安心できる通りへの再編が求められます。交通結節点における動線のバリアフリー化や、周辺空間の整備、水害に備えた垂直避難が可能なスペースの確保などが望まれます。

《捉えたいターゲット》



⑨緑道：
もっと明るく！生活者の憩いの場

関連する基本方針：①歴史の継承と発信、④回遊性の向上、⑤明るい景観の形成



緑道に沿った道路や隣接する店舗等とのアクセスの改良などにより、南北軸だけでなく、緑道から東西への回遊性の向上につながる取組を進めます。日常的な清掃や利用者のマナー徹底を促すことで、誰もが気持ちよく利用できる憩いの場としての通りづくりを推進します。

《捉えたいターゲット》



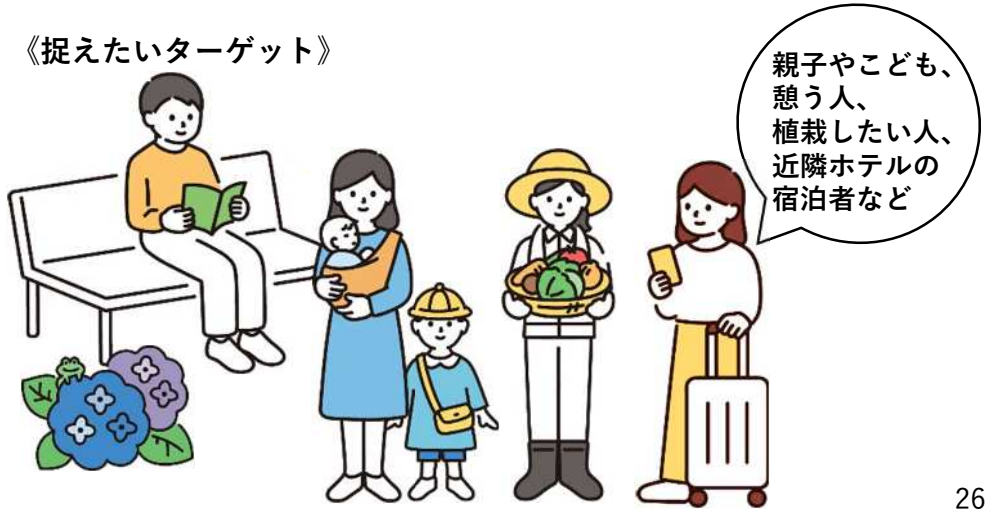
⑩公園：
一日中過ごせる、水と花のハーモニー

関連する基本方針：②水辺の活用、④回遊性の向上、⑤明るい景観の形成



祭利用や飲食、散歩などの日常的な憩いの場としてのニーズを維持しながら、フジやアジサイなど亀戸らしいみどりを活かし、周辺のカフェ等と連携した利用促進や、花や野菜を育てられる場の創出などが望まれます。喫煙者に配慮した空間整備も重要です。

《捉えたいターゲット》



コラム
未来ビジョンのヒント

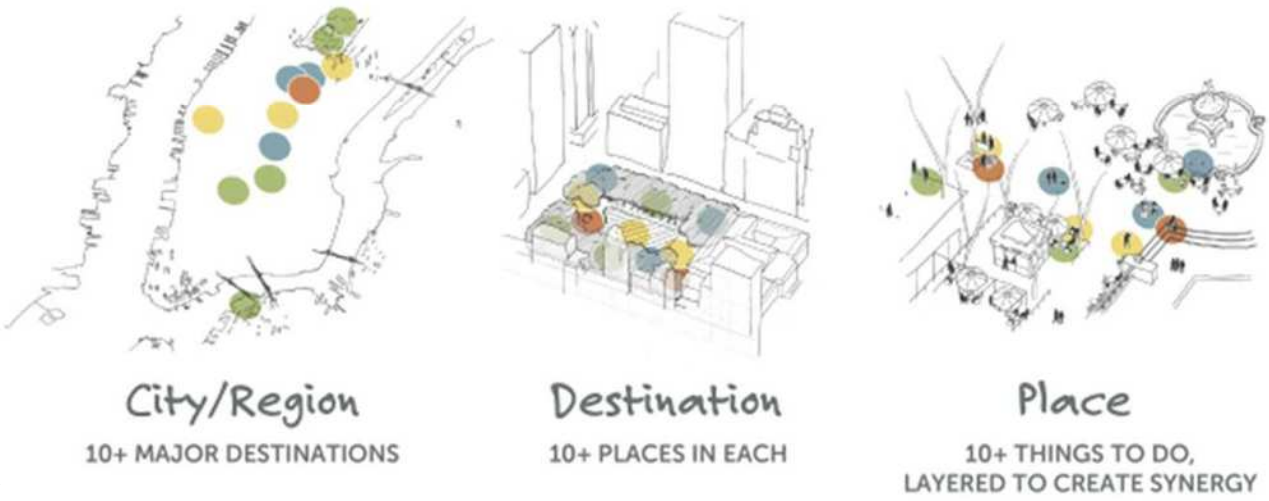
「Power of 10」という考え方

亀戸エリアプラットフォームでも、掲げた目標を具現化するために、まずは１０の創出したいまちなかのシーン（将来像）を検討し、イメージを描いてみました。

「Power of 10+」の概念

どのような規模の都市も、最低10か所の目的地が連続的に近接しているべきであり、各目的地はより小さな10の場所によって構成されるべきである。そして、各場所は人びとが携わる事ができる活動や行為を最低10個は提供すべきである。

by Project for Public Spaces（通称PPS）



出典： Project for Public Spaces ウェブサイト
PPSは、1975年にニューヨークで設立され、世界各地で公共空間づくりを支援しています。

第３章 アクションプラン

リーディングプロジェクトに取り組むワーキング

目標・方針・目指すべき将来像を踏まえて、６つのワーキンググループにてリーディングプロジェクトに取り組んでいきます。

高台スペースづくり

大きな水害に備え、高台を把握・整備する活動を進めます。水害により想定される被害の大きさを把握し、必要な高台を検討していきます。

食文化の振興

個性ある食や人々の魅力を伝えるため、地域で愛されるお店を取材しSNS等で発信します。新メニュー開発や食べ歩きマルシェの実現も目指します。

防災まちづくり

多種多様な人が災害時に困らないために、使いやすいデジタルツールの導入とサポートを強化すると共に、日常的に水辺を活用する機会を創出します。

歴史文化の発信

まち歩きやワークショップを通して、浮世絵や歌舞伎、神社仏閣など、亀戸にまつわる歴史文化を再発見し、発信していきます。

南北の連携強化

誰もが安心して移動できる動線を整備するため、バリアフリー化の検討を進めるとともに、線路下通路を含めた南北動線における魅力向上や快適な歩行環境の創出を目指します。

清掃/美化活動

きれいな街並みを形成・保全するため、花壇管理や清掃活動を行っている団体の活動を支援します。各団体が連携できる環境の構築も目指します。

高台スペースづくりワーキング

大きな水害に備え、高台を把握・整備する活動を進めます。水害により想定される被害の大きさを把握し、必要な高台を検討していきます。

■ 高台マッピングプロジェクト

《プロジェクトの実施内容》

- 江東区と協定を結んでいるマンション等実態を把握する。
- 浸水高さをAR等で確認しながら、上層階に避難可能な規模のスペースを有する建物がどこにあるかを調べる。
- 日常的に入れるスペースか、有事の際にのみ入れるように働きかけるスペースかを把握する。
- デジタルツールを用い、マップ上に高台をマッピングする。
- 外国の方でも理解ができるよう工夫する。

《対象となるエリア》

亀戸駅周辺、浸水深が高いエリア

《はじめに取り掛かること》

高台探しのまち歩き

■ 高台づくりプロジェクト

《プロジェクトの目的と方向性》

- 高台マッピングプロジェクトを実施した上で、どのエリアの高台が不足しているかを把握する。
- 高台を新しく創出する可能性を探るため、長い時間をかけて土地・建物の所有者と共に検討を重ねる。
- 特に来街者が多く帰宅困難者の受け入れも考えられる亀戸駅周辺においては、有事の際にも分かりやすく収容人数も多い高台の整備を目的として、江東区とも調整しながら整備方針をまとめる。

《対象となるエリア》

亀戸駅周辺

《はじめに取り掛かること》

高台が不足しているエリア把握

防災まちづくりワーキング

多種多様な人々が災害時に困らないために、使いやすいデジタルツールの導入とサポートを強化すると共に、日常的に水辺を活用する機会を創出します。

■ デジタル安否確認プロジェクト

《プロジェクトの実施内容》

- LINEのオープンチャットなどを活用したプラットフォームの作成。災害時における避難所等の案内や、避難が困難な人の支援、安否確認をできる機能をインプットする。
- スマホを持ちながらデジタル防災訓練を実施。
- 近隣中学校の学生（ジュニアリーダー）にも協力を求め、スマホ講座の実施により高齢者や外国人もLINEを使えるようにサポートする。
- ベランダ栽培をテーマとした活動をLINEオープンチャットでシェアするなど日常的な会話を促進。

《対象となるエリア》

亀戸全域（防災訓練にあたってはエリアを絞る）

《はじめに取り掛かること》

LINEオープンチャットの開設、スマホ講座の実施

■ 親水防災プロジェクト

《プロジェクトの実施内容》

- 亀戸の外周を囲う河川を活用し、水辺に親しみながら、正しく水害を恐れる機会をつくる。
- ゴムボート等で水害対応訓練を実施し、カヌーやボートに乗るコミュニティとの連携可能性も探る。
- 亀戸外周河川沿いマラソンやウォーキングイベントなどを実施し、特に氾濫・水没の可能性が高い地域を把握する。
- 在宅避難をすべき時と避難すべき時を適切に判断できるよう、基礎的な防災知識を共有する。

《対象となるエリア》

亀戸外周

《はじめに取り掛かること》

ゴムボート体験、亀戸外周河川沿いマラソンを実施

南北の連携強化ワーキング

誰もが安心して移動できる動線を整備するため、バリアフリー化の検討を進めるとともに、線路下通路を含めた南北動線における魅力向上や快適な歩行環境の創出を目指します。

■ 快適な移動ルートづくりプロジェクト

《プロジェクトの実施内容》

- 亀戸駅周辺のバリアフリー状況や公共交通の充実度について調査する。
- 交通結節点において、地域課題を踏まえ、バリアフリー化・移動円滑化のための方法を検討する。
- 夏季でも快適に歩ける日陰やクーリングスポット等休憩所の位置を調べ、デジタルマップなどで共有する。
- 快適な歩行者空間の在り方を検討し、整備方針をまとめる。

《対象となるエリア》

亀戸駅周辺

《はじめに取り掛かること》

バリアフリー状況や公共交通の充実度の調査
日陰マップづくり

■南北をつなぐ魅力的な歩行空間プロジェクト

《プロジェクトの実施内容》

- 線路下通路を含む南北動線について、安全で快適な歩行環境の確保に加え、アート等も含めた空間の魅力向上方策を検討する。
- この取組では、空間デザイン等の専門家が主軸を担いつつ、地域企業との連携、ワークショップ等を通じて地域のこどもや住民が参加する機会を創出する。
- 亀戸駅南北をつなぐ線路下通路を起点としつつ、亀戸内の各資源がつながるような仕掛けを検討する。

《対象となるエリア》

明治通り

《はじめに取り掛かること》

線路下通路の魅力向上に向けたワークショップやイベント等の実施

食文化の振興ワーキング

個性ある食や人々の魅力を伝えるため、地域で愛されるお店を取材しSNS等で発信します。新メニュー開発や食べ歩きイベントの実現も目指します。

■「食と人生」個性発信プロジェクト

《プロジェクトの実施内容》

- 地域の特徴的なお店や思い入れのあるお店について、その個性的な店主の人生とあわせて取材し発信する。
- 発信媒体は地域SNSやフリーペーパー、地域ウェブサイト等。
- 取材先のお店とのコラボで、マルシェとの連動や、亀戸の新メニュー（亀戸大根を活かしたものや季節感のあるもの、まったく新しいものなど）開発にもつなげる。
- メニュー開発にあたっては食品ロス削減やサステナブルな素材選定など資源循環も意識する。

《対象となるエリア》

亀戸全域

《はじめに取り掛かること》

取材と地域SNSでの発信

■食べ歩きマルシェプロジェクト

《プロジェクトの実施内容》

- 沿道のお店に参加してもらい、亀戸のB級グルメなどを楽しめる食べ歩きマルシェを実施。
- 十三間通りの歩行者天国との連携を目指す。現在は食べ物の提供にハードルがあるので、関係各所に相談し手法を調査する。
- 店舗が連なる亀戸駅南の横丁や、滞留空間のある竪川河川敷付近など、十三間通り以外についても実施を検討する。
- 個性発信プロジェクトと連動し、取材店舗の参加や新メニューのアピールなど、コンテンツに反映させる。

《対象となるエリア》

十三間通り商店街のほか、亀戸駅南の横丁や竪川河川敷など

《はじめに取り掛かること》

障害となる制度の勉強、手法の検討

歴史文化の発信ワーキング

まち歩きやワークショップを通して、浮世絵や歌舞伎、神社仏閣など、亀戸にまつわる歴史文化を再発見し、発信していきます。

■ 浮世絵スポット巡りプロジェクト

《プロジェクトの実施内容》

- 亀戸の浮世絵文化や歌舞伎文化について改めて共有する機会をつくる。
- 浮世絵を設置できる場所を探し、浮世絵スポットを増やす。
- デジタルツール等を用いて浮世絵スポットマップを作成し、浮世絵スポット巡りツアーを開催する。
- ツアー参加者には感想をSNSやブログ等で発信してもらうことで、ツアーの認知度を高める。

《対象となるエリア》

亀戸駅周辺

《はじめに取り掛かること》

浮世絵や歌舞伎に関連した文化を共有する
浮世絵を設置できそうなスポットを探す

■ 歴史資源再発見プロジェクト

《プロジェクトの実施内容》

- まち歩きや文献資料の調査等、亀戸の歴史資源を見つけることができるワークショップの内容を検討する。
- 浮世絵や歌舞伎だけでなく、祭文化、古道や古くから続く神社仏閣など、亀戸にある歴史資源を再発見するワークショップを行う。
- デジタルツール等を用いながら、歴史資源マップを作成し、発信する。
- 江戸文化にまつわる歴史資源の再発見とともに、江戸時代の循環型社会からリサイクルの精神を学ぶ。

《対象となるエリア》

亀戸全域

《はじめに取り掛かること》

歴史資源を再発見する方法のアイデア出し

清掃/美化活動ワーキング

きれいな街並みを形成・保全するため、花壇管理や清掃活動を行っている団体の活動を支援します。各団体が連携できる環境の構築も目指します。

■まちなかフラワープロジェクト

《プロジェクトの実施内容》

- 花壇をキレイに維持するため、花壇の管理をしているボランティア団体をリスト化し、アプリ等で各団体の活動を共有して連携を図る。
- 花壇を作ってほしい場所や鉢植えを置きたい場所を募集し、まちなかの花や緑を増やすと共に、水やりなどの管理を行うコミュニティを育む。
- 花壇作りにあたっては、フジやアジサイなど亀戸らしいみどりを取り入れたり、東京都や江東区のみどりの整備活動と連携する。
- 土捨て場を設置し、土を花壇に再利用すると共に、コンポストのチャレンジも検討する。

《対象となるエリア》

十三間通り、亀戸五丁目中央通り商店街

《はじめに取り掛かること》

他団体へのアプローチや新たな仲間を増やす
花壇を作れる場所や鉢植えを置ける場所を探す

■地域クリーンアッププロジェクト

《プロジェクトの実施内容》

- 江東区アダプトプログラム等と連携し、清掃団体をリスト化する。
- 清掃団体の連携を強化するため、各団体の清掃活動を共有するアプリを開発し、清掃状況を見える化する。
- ごみ拾いイベントやごみ拾いアプリの導入など楽しくクリーンアップできる仕組みを考える。
- 清掃が行き届いていない場所や時間はシルバー人材と協力し、綺麗な環境を維持する。
- 清掃活動について江東区とも連携を図る。

《対象となるエリア》

亀戸全域

《はじめに取り掛かること》

清掃活動に参加し、活動状況を把握する

コラム

未来ビジョンのヒント

社会情勢を捉えた新たな視点

近年は地球温暖化やAIの発達やデジタル化の加速など、様々な社会情勢の変化から私たちの生活に大きな影響が出てきています。目の前の課題だけではなく、そのような世界規模での変化も視点として取り上げながら、これからのアクションを起こしていくことが大切です。

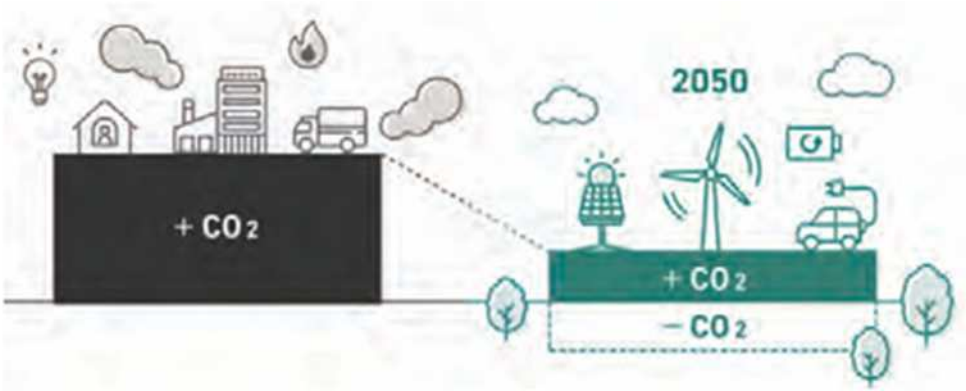
●プロジェクトに取り組む際の重要な視点

視点①：地球温暖化へのスモールアクション

亀戸で心配される水害も地球温暖化による異常気象等が原因。生活者一人一人のエコな心掛けを意識します。

視点②：デジタルツールの導入

多様な人々のネットワーク形成や担い手不足を補うデジタルツールを導入しながらプロジェクトを進めます。



ゼロカーボンシティのイメージ（出典：環境省）

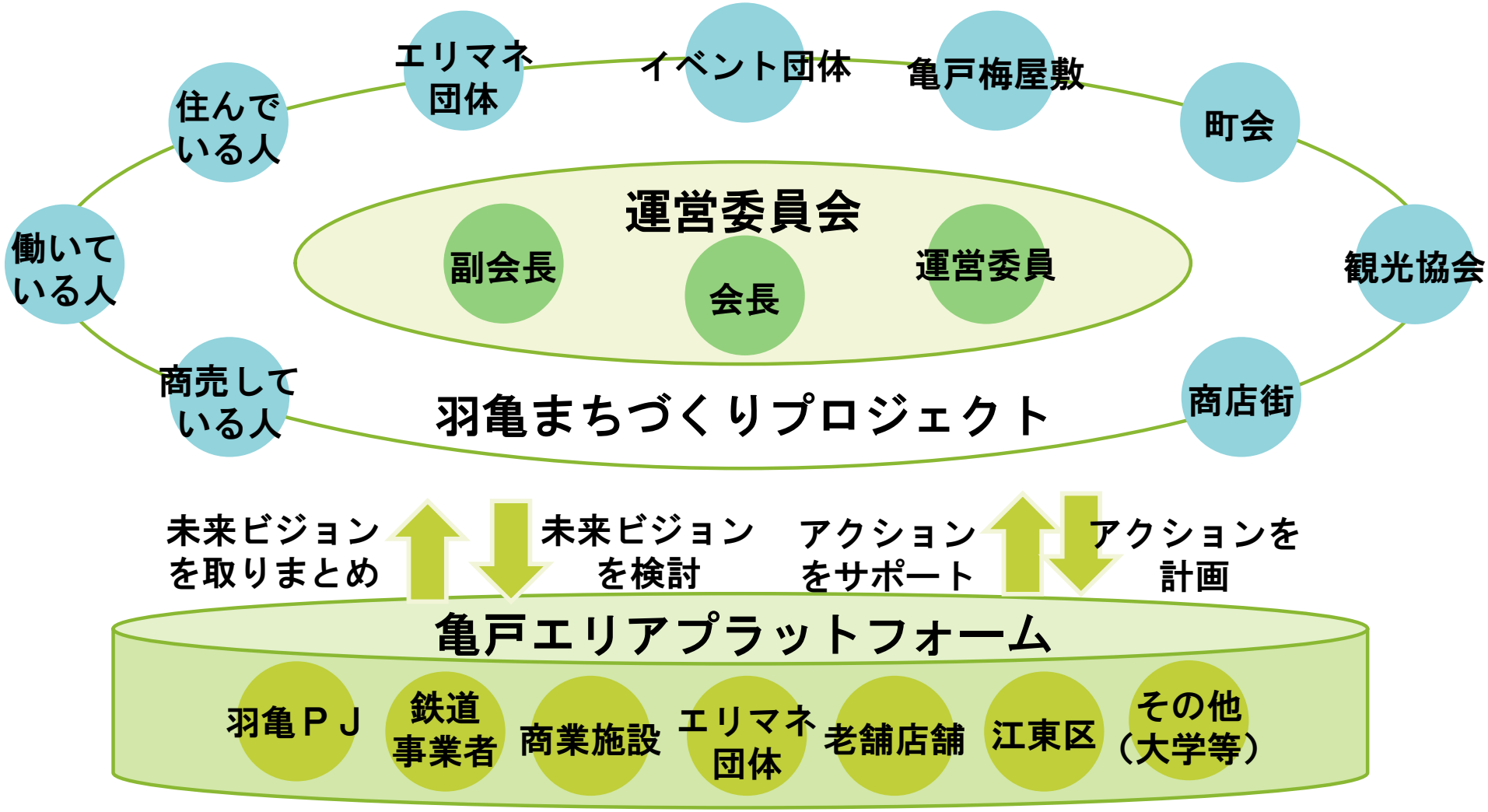


デジタルツール導入のイメージ（江東区）

第４章 未来ビジョンの実現に向けて

未来ビジョンの検討とまちづくりの推進体制

未来ビジョンは、羽亀まちづくりプロジェクトにおける検討内容も踏まえつつ、2025年12月に設立した『亀戸エリアプラットフォーム』において、2026年度に正式に作成されました。未来ビジョンに基づきアクションに取り組むにあたっては、エリアプラットフォームがその活動を支援します。



未来ビジョンの作成とこれからのアクション



VISION

六方芳!!
ほっぺがゆるむ
水彩シティ亀戸

未来ビジョンの策定

戦略とアクションプランの決定

課題の共有



課題の共有とビジョン設定の
プロセス

アクションと具体的な事業推進の
プロセス

複数事業の継続による
持続可能な取り組み

事業の推進

リーディングプロジェクトの始動
主体ごとの個別事業計画立案

社会実験による
課題解決の糸口模索



ACTION



ロードマップ

短 期
2025年度・2026年度

エリアプラットフォームの構築やビジョンを共有するフェーズ。

中 期
2027年度～2029年度

未来ビジョンに基づき各種活動を実験的に進めると共に、活動を持続可能にするための仕組みの検討や収益事業の準備をするフェーズ。

長 期
2030年度～

収益事業により活動を安定化させ、未来ビジョン実現を目指すフェーズ。

エリプラ設立

未来ビジョン策定

活動に応じた定期的な見直し

部会ごとの活動をスタート（案）

- **自 主 事 業 部 会** ：主に活動を維持する収益事業を検討
- **まちづくり支援部会**：主に地域活動を応援
- **まちづくり連絡部会**：主にまちの空間的再編の検討
- **広　報　部　会** ：主にエリプラやビジョンに基づく活動をPR

活動に関連したフィールドテストやプロジェクトを適時試行

連携

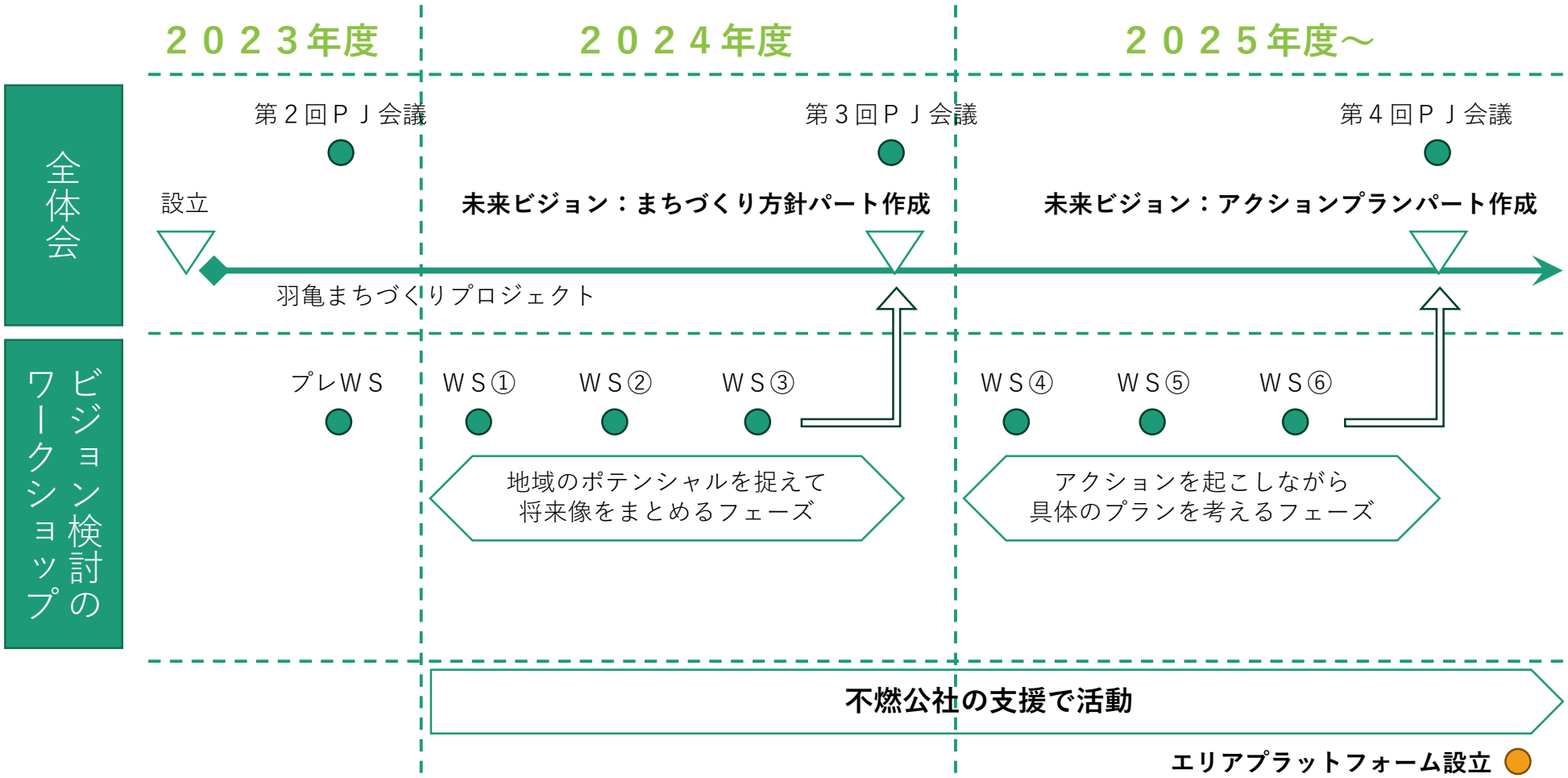
羽亀まちづくりプロジェクトの活動

六方芳！ほっぺがゆるむ水彩シティ亀戸

参考 未来ビジョン作成の経緯

羽亀まちづくりプロジェクトの活動

「亀戸未来ビジョン（原案）」は、羽亀まちづくりプロジェクトにて検討した「未来ビジョン（暫定版）」を受けて、亀戸エリアプラットフォームにて意見交換のうえ更新したものです。
羽亀まちづくりプロジェクトでは、2024年度～2025年度にかけて、亀戸のまちづくりにおける「未来ビジョン」の検討を進めました。「プロジェクト会議」という全体会と、「ビジョン検討ワークショップ」という意見交換の場を設け、亀戸に在勤・在住の方や亀戸のファンの方など広く参加を募りながら活動を行ってきました。



未来ビジョン検討の経緯

全６回のワークショップを行い、将来像の共有や具体的なアクションのアイデアについて意見交換しながら、未来ビジョンとして取りまとめました。 2024年度は未来ビジョンの大枠となる「まちづくり方針」のパートを、2025年度は、方針に基づくアクションを検討し「アクションプランパート」を検討しました。

2024

- **第１回　魅力（良い所）と課題（改善したい所）を探しに行こう！**
- **第２回　ポテンシャルのあるポイントの将来像を考えよう！**
- **第３回　将来像を踏まえた亀戸の目標を決めよう！**

第３回プロジェクト会議：未来ビジョンの「まちづくり方針（案）」パートのまとめ

2025

- **第４回　方針に基づくアクションを考えよう**
- **第５回　アクションを実現する方法を考えよう**
- **第６回　リーディングプロジェクトを点検しよう！**

第４回プロジェクト会議：未来ビジョンの「アクションプラン（案）」パートのまとめ

Action1　Action2　Action3　Action4　・・・